

蘇った担任と保護者の関係

土曜日の午後四時近くに、S教頭から電話がかかってきました。休日にかかってくる電話は何かがあった時です。携帯画面に表示されたS教頭の名前を見て、私はやや緊張しながら電話に出ました。「先ほどY先生から電話がありました。扉が全く動かない状態です。ドアロックが壊れたようです。扉が全く動かない状態です。野良仕事が一段落つきましたので、私はすぐに学校に向かい、地域玄関について問題の扉を見てみました。動かなくなっていたのは、観音開きする二枚の扉の片方でした。」

サムターンを回すと、ドアの最下部からデットボルト(かんぬき部分)が出てきます。それが敷居のストライク(受け座)に入ってロックされる仕組みになっています。デットボルトが飛び出た状態で扉を動かしたのでしよう。デットボルトが地面にささってしまい、扉が半開きの状態でびくとも思わなくなっていました。

力任せに改善を図ろうとも思いましたが、サムターン自体が壊れてしまったら何にもなりません。どうしたらよいか困っていると、きません。いろいろ思案しましたが、専門家に任せるより仕方がないという結論に落ち着きました。

しかし、休日のどんどん暗くなる時間に、すぐに駆け付けてくれる業者がいるだろうか不安になりました。案の定、連絡してみた瑞浪の業者は高齢化のため、鍵を扱うことをやめたとのこと。次の業者をあたってみようかと思ったその時でした。ある方のことが私の脳裏に浮かびました。

「この方は、校区でサッシ店を営んでみえます。二十五年前の教職の父親です。」

「鍵は扱ってないかもしれないけど、気さくですごくいい方だから、ダメもとでかけてみよう。」

S教頭が電話をかけると、その方はすぐにやってきてくださいました。そして、五分もかからないうちに、工具を使って問題を解決してくださいました。

「瑞陵中でA子さんを担任した安藤です。今は北中の校長をやっています。今日はありがとうございます。」

「お、先生かあ！偉い人になって帰ってきたんやね。A子は多治見におるよ。もう二人の子もちゃで。」

問題が解決されたこと以上に、二十五年前に築いた担任と保護者の関係が蘇ってきたことが、私にとっては何れもいいことでした。彼は仕事を終えると、見返りも取らず帰っていかれました。

だれがやったかはわかりませんが、扉の異変をそのままにして知らせもしなかったことに、私は不快感をもちました。しかし、彼のおかげで、それは一瞬で吹き飛びました。後日、改めてお礼に伺いたいと思っています。